〈第１回委員会及び小委員会での論点整理〉

資料２

テーマ　～「人の環流」～

（第１回小委員会 会議次第）

１ 開催日時： 平成 30 年 3 月 12 日(月) 10：00～12：00
２ 場　　所： 関西広域連合本部事務局大会議室
３ 出 席 者： 飯尾委員、上村委員、河田委員、北村委員、木村委員、新川委員、松原委員、山口委員
４ 議　　事： 意見交換　～人の環流について～

１　現状分析を踏まえた検討の重要性

「人の環流」について議論をするに当たり、現状がどうなのか、実態を丁寧に調べる必要がある（**小委員会**）。

・　首都圏への転出超過について、住民票の移動だけでは、実態を正確に把握できない。関西在住者の首都圏への通勤等の実態も調べる必要がある。（**小委員会**）（河田委員）
・　1980 年代から本格的に始まった一極集中とは大きく異なっている。グローバル機能や IT 企業についても、アメリカやヨーロッパとは異なり、東京に一極集中している。現在の東京一極集中がどのような局面にあるのか分析が必要。（**小委員会**）（北村委員）

２　施策を検討する上での留意点

・　人の環流を考えるにあたっては、現行の制度が動かせないものとして考えるのではなく、フレキシブルに考えるべき。広域連合が持つ歴史を離れて議論は出来ないが、一旦はその束縛を解放し、議論を発展させていくことが大事。（**第１回委員会**）
・　関西の良い面、悪い面、いろんな面での多様性を活かすことが必要あり、既存の枠を取り払った発想の転換が必要。（**小委員会**）

○施策の幅広かつ柔軟な検討

・　従来の手法に拘泥することなく、新しい発想で取り組むことが必要。（**小委員会**）（河田委員）
・　時系列的に考えるのではなく総合的に各分野等が連携・調整を図りながら対策を行うことが必要。（**小委員会**）（河田委員）
・　広域連合では、中央集権から独立して、道州制という趣旨が設立時にはあったと思うが、そのトーンが変わってきている。関西以外の地域では、国からの再分配を

受けるという考えが一貫しているように見える地域が多い。関西でも、関西に有利な政策をいかにすれば勝ち取れるかという戦略へ変更すべきではないか。**（第１回委員会）**（上村委員）

・　地方創生のためには、首都圏の活動に歯止めをかけるということよりも、域内の得意分野を一生懸命やるなど、関西のそれぞれの長所や優れた点を伸ばしていくことが大切。広域連合のすべての構成府県市が同じように発展するのではなく、うちはこの分野を伸ばすから他は譲るなどの調整が必要。**（第１回委員会）**（飯尾委員）

・　観光で人が訪れる交流と定住移住の問題は分けて考えるべき。ただし、問題の質は違うが関係もしている。**（小委員会）**（上村委員）

○国内における関西の位置づけ

・　関西の地位が相対的に落ちているので、西日本の中での関西地域の地位を確立することが必要。**（第１回委員会）**（松永委員）

・　東京以外の地域とのつながり、世界に目を向ける前にオールジャパンの中での位置づけをどうとらえるかを考えることが必要。**（小委員会）**（新川委員）

・　商取引や電気通信の回線など経済的に関西広域連合内も含めて関西圏域とその外側の周辺地域との関わりが深い。このような関わりを広げていく視点が必要。**（小委員会）**（新川委員）

○関西の特性を活かすこと

・　関西は、都市と農村のバランスが非常によい。広域連合のそれぞれの分野が、人と人や情報と人とをちょっとした工夫でつないでいく努力をすることにより、発展していく可能性がある。（第１回委員会）

・　関西の良い面、悪い面、いろんな面での多様性を活かすことが必要あり、既存の枠を取り払った発想の転換が必要（小委員会）

・　関西の魅力は、自分たちが思っている良さだけではなく、外の目から見たら意外なことに魅力があったり、また逆の場合であったり、あるいはそれが障害となっているようなこともあるかもしれない。そういう視点での検討が必要。（小委員会）

【都市と農村との交流】

・　関西地域は都市と農村のバランスがとれた地域であり、今後発展する可能性がある。新しい分野で連合が取り組める課題に、地方分権を進めるという観点からも重点的に取り組むべき。特に、21 世紀型の新しい都市と農村の交流は深めていけるのではないか。**（第１回委員会）**（北村委員）

・　関西は世界における多文化共生の先進地域であり、国際性に富んでいる。経済的な面よりも、社会・生活文化のような国際的な面を軸にして検討することが大事。**（第１回委員会）**（新川委員）

【多様な暮らし方の許容】

・　関西圏域は、多様な暮らし方を許容できる地域である。週末居住としての関西ではなく、もう一つの生活の拠点関西として、暮らし方のモデルを発信していければいい。例えば半農半Ｘのような、生活の半分は心身の健康のために過ごすような暮らし方。そういう暮らし方を許容できる地域の特性に魅力を見つけることが人の環流に繋がる。（**小委員会**）（新川教授）

【企業を育てる目】

・　関西は、東京に比べ、コストや枠組みに厳しいのでそういうところがベンチャー企業には厳しい。少し大目に見るというマインドが関西人には必要。（**小委員会**）（上村委員）

→　大阪では、新規開業者の５年継続率が全国と比較して高いことから、目利きが効いていると言えるかもしれないが、世界に打って出るようなベンチャーが出ているかという点では弱い。（**小委員会**）（新川委員）

【地域内のそれぞれの個性】

・　関西は一つの地域だが、大阪、神戸、京都、近江などそれぞれで個性がある。多文化共生というものはそういうもので、それぞれの個性を持って展開することがグローバル時代への対応として必要。（**小委員会**）（北村委員）

〇関西の魅力創出・発信

【情報発信】

・　関西は、まちづくりや福祉などの面などで、非常に先進的な事例が多くあるが、一般にはあまり知られていない。これらの情報発信についてもっと努力がいる。（**第１回委員会**）（木村委員）

・　人口、資源、課題などについて情報を共有し、課題毎に連携し、その成果を関西域外に向けて情報発信していくことが必要。（**第１回委員会**）（遠藤委員）

・　具体的なものについて、具体的な実績を例に挙げ、それを積み重ねることが大事（**第１回委員会**）（衣笠委員）

【海外に対する発信】

・　海外からの観光客により、大阪、京都がまるでアジアの過密都市のようになっている中、海外からの観光客をどう関西に環流させるかを考える必要がある。（**第１回委員会**）（松永委員）

・　外国人観光客は、大阪や京都には東京都と肩を並べるくらい来訪している。それは、USJ や大阪のまちづくりといった素晴らしいソフトがあるから。今後も関西が合同してソフトの提供に努力していくことが必要。（**小委員会**）（木村委員）

・　外国人が働きやすい環境を整備し、それをＰＲする必要がある。（**小委員会**）（木村委員）

・　外国人富裕層を相手に、その地域だからできるというオンリーワンなサービスを行い、それを売り込んでいくことが必要。（**小委員会**）（河田委員）

【国内外に対する魅力発信】

・　インバウンドだけでなく、日本人にも魅力的な地域でなければならない。（**小委員会**）（河田委員）

→　日本人宿泊客の伸び率は低い。外国人観光客に期待したくなるのは分かる。（**小委員会**）（木村委員）

・　和歌山のおいしいみかんなどは、地域外では非常によろこばれる。中にいてはその良さがわからないものもあり、外からの目で見るということも必要。（**小委員会**）（木村委員）

・　教育的な意味での観光の位置づけと産業としての観光の位置づけを整理して、議論する必要がある。（**小委員会**）（山口委員）

【歴史・文化に目を向けた魅力発信】

・　関西の歴史の面白さというのは外国人にとっても魅力的。自らの歴史を知ることは、大切なことであり、かつ若者が地元に愛着を持つことに繋がる。（**小委員会**）（山口委員）

【バーチャルとリアリティ】

・　観光を促進するためには、神社仏閣や自然だけに頼ってはいけない。リアリティがあるものだけではなく、例えば、ほとんどがトンネル内を走行するリニア新幹線の窓に外の風景を投影するなど、バーチャルなものも考えていかなければならない。多面的に観光というのを考えることが必要。（**小委員会**）（河田委員）

・　バーチャルな世界で関西の固有性をいかに築いていくかということが重要だと思う。 ネットワーク上でできあがる関西のイメージがリアルな世界にも直結してくる（**小委員会**）（新川委員）

【スーパーメガーリージョンに関して】

・　スーパーメガリージョンについては、将来的には、中国海岸部の裾野になってしまうのではと危惧しているが、大阪圏は、新しい事業が開業される率も高く、新たなビジネスチャンスがどんどん生まれているところでもあり、チャレンジしようとする人にとって、大阪圏が魅力的な場所になるかが重要で、逆に このメガリージョン問題を利用すべき問題として考えてもよい。（**小委員会**）（新川委員）

【国際会議をビッグチャンスに】

・　来年 G20 が大阪で開催される。世界中の各地域とつながるチャンスであり、万博やＳＤＧｓにもつなげることができることから、戦略的な検討が必要。（**小委員会**）（新川教授）

【関西のイメージブランドの確立】

・　ブランドイメージというのは大事。関西で４つくらいの写真を組み合わせたら、関西と分かるぐらいのイメージを造り上げることが必要。（**小委員会**）（木村委員）

〇圏域内の交流促進・ネットワークづくりの重要性

・　人とノウハウの共有が大切。各自治体での取組のうち、広域でも取り組めるものについて共有していく。キーとなる人や大学、団体を吸い上げて育てていく。各自治体や各地域の成功事例を収集し、それを広域連合でどのように応用できるか、どの点が応用できるか具体的に検討すべき（**第１回委員会**）（加渡委員）

・　いろいろな分野において、機会がほとんどない府県域を越えた民間団体同士の交流を促進することが必要。それによりネットワークが広がり、情報交換をすることで新たなアイデアが生まれる。民間団体の知恵と行政との協働により効果が更に上

がるはず。**（第１回委員会）**（松原委員）

・広域連合は権限がないだけに、NPO などは、府県よりも広域連合とはつきあいやすいのではないか。直接住民と関わってみることも考えるべき。**（第１回委員会）**（飯尾委員）

・　NPO の数は東京圏に対して大阪圏も負けていない。世界で活躍する NGO もたくさんある。NPO や市民活動について、関西の各地域では、全国を先導するような取組もなされている。このような動きを関西の力と位置づけ直すことで、関西圏域として支えあうような新しい関西の力が見えてくる。**（小委員会）**（新川委員）

・　お互いの顔を知ることにより得られる共感が人を動かす。これが自治の基本。広域連合は、関西の内だけではなく関西の外と顔が見える関係を作る接点となれる。答えのないこの時代を、思いのある人たちが知を共有して乗り越える、その手伝いを広域連合ができれば、他の地域ではできないまちづくりのバックアップができるのではないか。現場の皆さんがより動きやすく自信を持てるサポートを施策として提案することが大事。**（第１回委員会）**（山口委員）

・　圏域内の人が交流しあうことにより相乗効果を生み、新しい生産や発見、文化を作っていける姿を考えることができる。府県内、市町村内にとどまらない視点が必要。**（小委員会）**（新川委員）

・　職員の交流により協力体制の構築を図ることなど、出来ることから提案したい。**（第１回委員会）**（衣笠委員）

○「人の環流」の多様性

・「人の環流」は、移住、定住、交流、観光、観光で訪れたことがきっかけとなって生じるその後の効果、人生の経路の中でのライフスタイルなど、イメージを豊かに考えなければならない。（小委員会）

・　移住・定住は、数の問題ではなく、質の問題として考えることもできる。人生 100 年時代、生きがいや人生の質が非常に大事であり、セカンドライフを送るために必要となる就労支援を考えなければならない。一国レベルでは広すぎるし、都道府県では狭すぎるので、関西広域レベルで考えるべき。**（小委員会）**（北村委員）

　→　100 年人生を支えるために一番欠かせないものは、医療と福祉の整備。**（小委員会）**（木村委員）

・　展望研究では、人口減少が免れない中で人が環流するという提言を行った。その１つが二地域居住。都心で働き週末は地方で過ごすなど、複数の地域と関わり合いを持つことを提言。この２、３年で特に若い世代でのＩターンが如実に伸びており、働き方改革によるものや、価値観が変わってきたことが追い風となっている。**（第１回委員会）**（松永委員）

・　東京で働いて、関西に戻るといった二地域居住でもいい。**（小委員会）**（飯尾座長）

３　具体的な施策例

【歴史・文化に目を向けた魅力発信】

・　文化や伝統芸能を次世代に継承することが必要。知られていない文化資源の掘り起こしを行い、国内外に発信する。そのために、各地の祭りなど伝統芸能のカレンダーを作る。例えば、フォトコンテストを実施し、応募された写真は、それぞれの行事の情報として貼り付け、視覚的に関西の魅力を発信する。（**小委員会**）（松原委員）

【バーチャルとリアリティ】

・　古墳時代、飛鳥時代、奈良時代において、和歌山県から奈良県までどのようにつながっていたかを今に残る文化遺産のリアルとバーチャルによって、好奇心を刺激する。（**小委員会**）（松原委員）

・火山活動の結果生じたリアルとしての今のジオパークとバーチャルでジオパークを眺める仕掛けをつくる。（**小委員会**）（松原委員）

【魅力の創出】

・　移住を進めるためには、例えば世界の頭脳と呼ばれる方を招聘するなど魅力を創出し、若い人を含めて考えることも必要。（**小委員会**）（上村委員）

【学校との連携】

・　修学旅行では、自然体験型の教育旅行のニーズが増えている。学校と提携すればＵターン、Ｉターンの受け皿になる。体験学習型の観光の一覧を広域連合が作成すればどうか。（**小委員会**）（北村委員）

・　大学が実施しているリカレント教育を１つにまとめ、これの情報共有を図っていくことも可能。（**小委員会**）（松原委員）

・　関西地域からの人口流出は１つは大学進学時に、もう１つは就職時に発生する。人口流出を食い止めるためには、進学時に関西から出さない手段を考えるべき。報告書に示された単位互換制度や教員の流動性を確保する仕組み作りなどについて検討すべき。（**第１回委員会**）（加渡委員）

【情報の発信】

・　広域連合に来れば関西域内の取組状況を分かるようにするなど、情報の共有化を図ればよい。プログラムコーディネーターとして職員を配置することを考えればいいのではないか。（**小委員会**）（木村委員）

・　梅キタの再開発の話など、関東地域などにおいて出前講座みたいなことをできないか。草の根のＰＲ活動は重要。（**小委員会**）（木村委員）

・　毎年、構成府県市が、交流する府県を決め、その府県への旅の思い出を「良い旅日記」として応募してもらい、府県民向け広報誌に掲載するのはどうか。「関西人仲間」意識の醸成に繋がるはず。（**小委員会（メール）**）（衣笠委員）